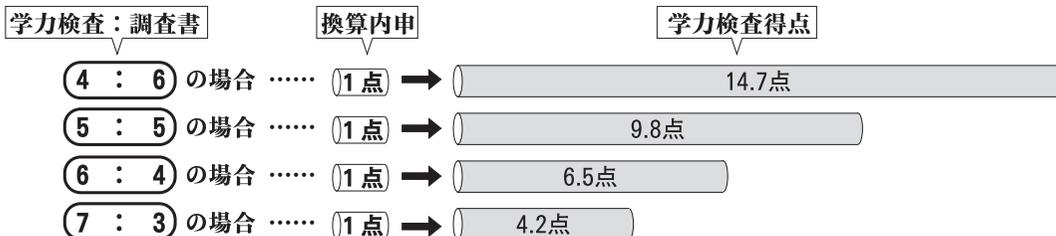


1 内申点 1 点の重み

換算内申(51点満点の場合)の「1点」に対し、学力検査得点(500点満点)は、学力検査と調査書の比率により、下のように対応します。



換算内申の「1点」を埋めるために、「学力検査：調査書」が「4：6」の高校では学力検査得点が14.7点必要ですが、「7：3」の学校では4.2点ですみます。

2 一般入試の選抜方法

2014年からグループ作成問題を導入

グループ作成問題 → 15校を3グループに分けて共同作成

生徒の能力や適性、学習の到達度をより正確に評価することを目的に、2013年度入試までは右の15校において国語・数学・英語の問題を自校で作成していました。2014年からは各校個別の問題ではなく、15校を3つのグループに分けて、グループ内で作成した問題を出題しました。

・進学指導重点校グループ

問題作成委員が各教科、大問ごとに2通りの問題を作成。各校の校長が、自校の求める生徒像を踏まえて大問ごとに選択して、問題を構成しました。各教科大問1題までは自校で作成した問題に差し替えて出題することも可能で、2014年春は日比谷が数学・英語、西が数学で差し替えを行いました。

・進学重視型単位制高校グループ

問題作成委員が共通の問題を作成。各教科1問は

グループ	校数	学校名
進学指導重点校	7校	日比谷、戸山、青山、西、八王子東、立川、国立
進学重視型単位制高校	3校	新宿、国分寺、墨田川
併設型中高一貫教育校	5校	白鷗、両国、富士、大泉、武蔵

各校で作成した問題を出題しました。国語は、大問3の題材は共通でしたが小問の内容は各校異なる問いに。数学は、大問1が3校とも異なる出題でした。英語は、大問3が3校とも異なる出題でした。

・併設型中高一貫教育校グループ

問題作成委員が共通の問題を作成。各校とも同じ問題を出題しました。

3グループとも、英語のリスニングと理科・社会は都立高校の共通問題を使用。国際は3教科入試のうち英語のみ自校作成問題(120点満点・60分)を出題しました。

男女枠緩和 → 定員が男女別の場合でも、10%だけ男女合同の順位で合格者を決める。

都立高校(コース、単位制、専門学科は除く)では男女別の定員に基づいて合格者を決めています。男女枠を緩和している高校では、募集人員の90%は

男女別の順位で合格者を決め、残りの10%は男女合同の順位で合格者が決められます。2014年入試の普通科で男女枠緩和を実施した高校は36校でした。

特別選考

→定員の10～20%だけ高校独自の方法で合格者を決める。

特別選考実施校では、まず受験者全員を対象に、総合得点の順に募集人員の80%または90%を選抜します。次に、総合得点で合格にならなかった受験者を対象にして、残りの20%または10%を特別選考として選抜します。学力重視など、各校の「求める生徒像」に照らして評価する選抜方法です。「学力検査のみで選抜」「調査書と学力検査と面接の比率を独自に定めて選抜」「特定の教科の配点を増やして選抜」など、実施方法は各校さまざまです。

なお、2016年入試より特別選考は廃止になります。

▼2014年春 特別選考を学力検査のみで行った高校（13校）

日比谷・戸山・上野・両国・雪谷・西・北園・小松川・立川・町田・国立・墨田川・翔陽

▼国語・数学・英語の得点を重視する高校も

通常の配点

国語 100点	数学 100点	英語 100点	理科 100点	社会 100点
------------	------------	------------	------------	------------

国語・数学・英語の得点を1.5倍（戸山・両国・雪谷・武蔵丘・翔陽）

国語 150点	数学 150点	英語 150点	理科 100点	社会 100点
------------	------------	------------	------------	------------

英語を3倍（井草）

国語 100点	数学 100点	英語 300点	理科 100点	社会 100点
------------	------------	------------	------------	------------

国語・数学・英語の得点を2倍（日比谷）

国語 200点	数学 200点	英語 200点	理科 100点	社会 100点
------------	------------	------------	------------	------------

（2014年春参考）

*特別選考で選抜するときに関し、この配点に計算し直します。

★p47「各高校の選抜方法一覧」の『特別選考(%)』を参照してください。

傾斜配点

→たとえば「英語×2倍」など特定教科の得点を大きくする配点

コース制、単位制、専門学科などでは、英語の得点を2倍にするなど、特定の教科の満点の点数を変更できる「傾斜配点」を行うことができます。

傾斜配点を行う場合、下のように教科数や配点の

変え方で満点が違ってきます。こうした傾斜配点実施校では自分の得意教科を生かすことができます（学力検査の傾斜配点はp47「各高校の選抜方法一覧」を参照）。

【例】松が谷（外） 2014年春

$$\begin{array}{l} \text{傾斜配点} \end{array} \quad 100 \text{点} \times 2 + 100 \text{点} \times 1 + 100 \text{点} \times 2 = 500 \text{点}$$

(国語) (数学) (英語)

（2014年春参考）

学力検査 時間割

集合	国語	数学	英語	昼食	社会	理科
8:30	9:00～9:50	10:10～11:00	11:20～12:10		13:10～14:00	14:20～15:10

入試を
もっと
深く知ろう

3 推薦入試の各検査について

推薦入試は多くの高校が2日間の日程で行います（一部の高校は1日ですべて行う）。選抜資料は調査書のほか、集団討論および個人面接は受験者全員、小論文または作文、実技検査、その他学校が設定する検査で、そのうち1つ以上の検査を実施します。検査の日程や順番は各校ごとに異なります。